

#### 4 アドバイザー講評

専門的立場からはどうしても参加の仕組み、情報共有の仕組みなどを考え、それ以前にある「交流」というのは、なかなか研究や制度に出てこない。このように、参加や情報共有の前に、話し合うこと、知り合うことが大事なのではないかと思う。私は、当初、今回の市民協働ワーキングが困難なものになるのではと危惧していた。しかし、ふたを開けてみると、こんなにも上手くいったことに驚きと喜びを感じている。大変すばらしい。そして、今回今日の皆さんの様子を見て、もう少し時間があって、いろいろと話すともっと良い意見が出てくるのではないかと感じ、交流の大事さを改めて実感した。ぜひ条例づくりでも様々な交流の機会をつくってほしいと思っている。

これから条例づくりに入っていくうえで、大事な点をもう一度確認をしたい。3つのコンセプトにおいては、1つ目は条文ではなくて自治をつくっていくということを掲げている。多くのまちでは自治ではなくて条文をつくっており、「何のために」という目的を見失っていると思う。戸田市においては、条文ではなく自治をつくっていく、そこからやっていかなければだめだというスタートを切った。これを常に頭に入れていただきながら次の作業に入っていただきたい。2つ目に、身近な課題を解決するための仕組みをつくっていくということを掲げている。多くのまちは具体的に何の解決もしない、形だけのものをつくってしまっている。これは反省として、自治体の条例なので、内容的には理念的なものが多いとしても、それは具体的な私たちの生活の課題を解決していくものを意識してつくってほしいと思う。そして、3つ目は、制定作業を進めながら協働の一步につなげていくことを掲げている。多くのまちでは、条例をつくりました、これから協働してください、協働しましょう、とやっている。そういう反省から策定作業を進めながら協働に取り組んでいくということである。この3つを常に忘れないで、次の条例づくりに入ってほしい。

第1ロケットはスタートしたということで、ほっとした。また第2ロケットでは、この推進力を失わずに、先ほど言った本来の目標を見失わずに、着実に進めてほしいと思う。このような条例づくりは全国にはない。「ない」ということは、これができたら、このまちのブランドになるということである。戸田市はそういった条例をつくったというブランドはすごいと思う。歴史などのブランドは簡単にできないが、このブランドは皆さんの力でできる。そういうまちだと日本中に広がる。そういう意味も含めて自治基本条例づくりは頑張してほしいと思う。自治の基本をつくっていく条例なので、やりがいもある。大変だと思うが私も精一杯お手伝いするので、ぜひ良い条例づくりを進めて行きましょう。